



がん薬物療法専門医のコラム 第11回

治療のライン ～ 一次治療、二次治療～

患者さんとお話しするなかで、どうしても説明で専門用語を使わざるをえないときがあります。アンケートによると、医療者側からすると多分わかるであろうと考えている用語でも、一般の方にとっては難しく感じる言葉がたくさんあります。

これまでも、このコラムではそれを少しでもお伝えできるよう取り上げてきました。

今回は、現時点の治療の立ち位置を示す言葉である、『ライン』、『〇次治療』を取り上げます。

がんの薬物療法 = 抗がん剤を主とした薬を使った治療 としては、一般的に、そのがんの治療として優れている方から順番に治療をすすめていきます。

その順番がどれにあたるかを示す言葉が横文字では『ライン』、純粋な日本語では『〇次治療』と表現されます。

仮に、抗がん剤治療が向く胃がんにかかれたとします。

まず、一番初めにやる薬物療法は

1st line (ファースト ライン) = 1次治療 と呼びます。

この治療が効いていて、副作用が軽ければ続けていきますが、何らかの事情で治療法を変えなければならなくなります。

その場合は、最初から数えて2番目の治療になりますので

2nd line (セカンド ライン) = 2次治療 と呼びます。

それ以降、3番目であれば

3rd line (サード ライン) = 3次治療 と、続けていきます。

野球で、ヒットを打ってベースを回る際に、1塁、2塁、3塁と進塁するイメージでかंगाえていただくとわかりやすいかもしれません。

おわかりいただけただでしょうか。

また、一般的に、治療が進む(〇次治療における数字が大きくなる)と、治療がうまくいく確率は低くなることは知識としてもっていただければと思います。そんなに効く治療なら出し惜しみなく最初からやっと思うでしょうし、実際出し惜しみはしませんから。

今回はこれで

